

1号議案

令和4年度事業報告

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

(事業活動総括)

令和4年度は、コロナ禍による活動の制限が続きましたが、年度が終わるにつれてコロナ感染も収まりつつあり、新型コロナウイルスへの危機対応も転換点を迎えてきています。

今年度も、総会、研修会他事業運営は、Zoom 利用を中心に行いました。

○ 研修・研鑽事業

森林総合研究所主任研究員の藤井一至先生による講演会、当会会員が講師になったオンライン研修会を3回開催することができました。

○ 会員交流事業

会員の圃場を使って開催する予定でしたが、雨天のため中止となりました。

○ 会員活躍推進事業

研究部会活動は、年1回の開催となりました。また、日本土壌協会からの依頼で、さいたま市の農業基礎セミナー、埼玉県立児玉白楊高校の出前研修への会員の講師派遣を行いました。

○ 検定試験講習会事業

3級は会員外に向けたオンライン研修会と対面式の模擬試験勉強会を開催しました。

2級はHP を使って会員向けに問題演習講座と会員向けのオンライン勉強会を開設しました。

埼玉県鴻巣市に加えて群馬県高崎市で検定試験会場を設置しました。

○ データ駆動型土づくり推進事業

会員の圃場での参加を推進し、埼玉県、群馬県で会員が事業に参加しました。

○ 会員の増減

令和4年度の会員の増減は、新規加入26名、退会6名、令和4年度末の会員数は、68名となっております。会員の増加の主な要因の一つに、検定試験に対する受験者向けの講習会開催があったと考えられます。また、規約を改訂し会員資格として首都圏在住あるいは在勤者以外全国を対象としたことにより新規の内12名（海外含む）が首都圏以外となっております。

○ 会員システム

新たな会員システムは、会員間の認知も高まり、一定の機能を果たしていると考えられます。

1. 第6回定期総会の開催

令和4年6月25日、ZOOM を活用し開催しました。総会では、事業計画（案）、予算計画（案）が承認されました。また新たな理事として井田様、芹澤様が承認されました。

2. 意思決定のシステムの構築

(1) 定例理事会の開催

毎月第一月曜日を基本に、定期的に理事会を開催しました。

(2) 意見交換会

総会において意見交換会を開催しましたが、会員交流集会に合わせて行う予定の意見交換会は、雨天のため中止になりました。

3. 業務遂行体制の確立

(1) 特定の業務について、理事会の業務遂行を支援する相談役の設置

令和4年度は、会員に業務運営に対する参加を呼びかけ、理事6名、相談役3名の体制で業務を遂行することができました。

会員の高野様にデータ駆動型推進事業を中心に相談役を、また、会員の中澤様、内藤様に、検定試験講習会を中心に相談役を引き受けていただきました。

(2) 理事会の業務を事業単位に分割

理事会の業務ごとに担当理事を決め事業運営を行いました。しかし、研修担当は業務範囲が広くそのため担当者が決まらず、その結果、研修の都度担当を決めて行いました。

(3) 情報システムの確立

会員システムは定着してきました。会員限定のコミュニティとしてFB「首都圏土壤医の会井戸端会議」を作成し、現在の加入者は20名となっております。Instagramは、対応ができませんでした。

4. 広報活動の活発化

従来のHPやFBへの投稿については従来と変わらず会員外イベントの告知に留まりました。都市農地活用センターの専門家情報データベースへの登録についても実施に至らず、登録案の作成に留まりました。

会員専用サイト（外部の会員管理サービスMit+（ミータス）を利用）を開設し、イベント予定やお知らせ内容など会員がこのサイトを閲覧することで確認できるようにしました。

5. 研修・研鑽事業

(1) 研修体系の確立

理事会で特別講演会2回を含め7月から3月までの毎月開催の目標を立てました。研修内容を体系化することはできませんでした。

(2) 研修会の企画・実施

開催目標には届かず、特別講演会は8月に1回、会員によるオンライン研修会は3回の実施となりました。

① 第1回研修会 特別講演会（オンライン）

開催日時 令和4年8月20日

テーマ「土の来た道を掘り返し、土の行く道を探る」

講師 森林総合研究所主任研究員 藤井一至氏

参加者84名

② 第2回研修会 オンライン研修会

開催日時 令和4年10月21日

テーマ「下水汚泥発酵堆肥の活用方法と留意点」

講師 古井義博氏（当会会員 共和化学工業株式会社環境微生物研修所）

③ 第3回研修会 オンライン研修会

開催日時 令和4年12月3日

テーマ「鉢花栽培と土づくり（生産者の話として）」

講師 高山晃氏（当会会長 高山農園（桂楓園））

④ 第4回研修会 オンライン研修会

開催日時 令和5年3月22日

テーマ「滋賀県の地域性とコミュニティと土質」

講師 村田春奈氏（当会会員）

テーマ「畑で出会う虫たち」

講師 高野典子氏（当会会員 柏土壤医の会会長）

(3) その他

過去の研修会の実績を元に研修会の企画から実施、その後の録画視聴、CPDポイント申請に至るまでの工程と注意点の見える化を行い、講師と実施日程が決まれば一連の流れにそった実施ができるようなノウハウが蓄積されました。

6. 会員交流事業

3月開催の計画を立てておりましたが、雨のため中止となりました。

7. 会員活躍推進事業

(1) 会員活動の支援

サークル化活動の仕組みは作りましたが、実績はありませんでした。研究部会活動も、1回の開催となりました。

(2) 研究部会活動

市民農園等小規模圃場の土づくり研究部会では、今年度1回のみ開催となりました。

(3) 会員活躍の場の企画・開発

都市農地活用センターの人材派遣としての要望はありませんでした。

土壌協会より、さいたま市の研修会の講師派遣および農業高校に対する出前研修の依頼があり、本会会員で対応しました。これらの活動は土壌協会の補助事業の対象となり、参加会員に対して交通費、若干の日当を支払うことができました。

8. 検定試験講習会事業

(1) 検定試験普及活動

複数の会員により、ポスター、パンフレットの配布が行われました。

なお、検定試験普及活動が土壌協会の補助事業に該当し、パンフレットの配布などの活動に参加した会員に対して、補助金の範囲内で交通費および若干の日当を支払うことができました。

(2) 検定試験講師の養成

さいたま市農業基礎セミナーおよびオンラインによる3級検定試験講習会実施に当たり、講師のリハーサル等行い、新たに3名の会員が講師としてデビューしました。

(3) 検定試験講習会の企画及び開催

① 3級検定試験講習会

担当会員が講師用教材を作成しました。

3級は外部の受験者を対象に、オンライン形式の講習会を開催しました。

3級の講習会は会員以外の者を対象に行われたので、土壌協会の補助事業に該当し、講習会講師および参加者に対して、若干の講師料または日当を支払うことができました。

② 2級検定試験講習会

テキストを音声化した教材を作成しました。

2級は会員を対象に、オンライン形式の講習会を開催しました。

③ HPでの情報提供

ホームページでの2級問題演習の更新は令和4年度内にはできず、また、3級については作成できませんでした。

(4) 検定試験会場設置

令和4年度は、埼玉県鴻巣会場、群馬県高崎会場で試験会場を設置することができました。

群馬会場の受験者は44名(2級16名、3級28名)、鴻巣会場は116名(2級50名、3級66名)で、昨年度の首都圏土壤医の会で設置した会場(鴻巣会場のみ)と比べ、50名増となりました。

9. 「データ駆動型土づくり推進事業」について

(一財)日本土壤協会が中心になって行っている「データ駆動型土づくり推進事業」について、継続に至らなかった会員がいる一方、新たな会員も参加しました。

10. 賛助会員について

他団体の賛助会員規程等を参考に当会用の規程を作成すべく調査を始めるにとどまりました。

11. 総会・理事会に関する事項(総会1回、理事会12回開催)

開催日	種類	会議事項(全てオンラインでの実施でした)
2022年5月21日	第40回理事会	さいたま市講習会、役割分担、事業計画、特別講演会
2022年6月13日	第41回理事会	定期総会議案検討
2022年6月23日	第42回理事会	定期総会議案検討
2022年6月25日	第6回定期総会	令和3年度事業報告・会計報告、令和4年度事業計画・会計予算
2022年7月4日	第43回理事会	理事会定例化、役割分担(研修会、受験講習会、特別講演会)
2022年8月1日	第44回理事会	特別講演会、各事業担当進捗確認
2022年9月5日	第45回理事会	各事業担当進捗確認、理事会のコミュニケーションツール検討
2022年10月3日	第46回理事会	研修会、検定普及計画、補助金申請等
2022年11月7日	第47回理事会	コミュニケーションツール、ライブラリー、研修会、試験対策講習会、試験会場設置、交流会等
2022年12月14日	第48回理事会	SNSツール、ライブラリー、現地研修会、試験対策講習会等
2023年1月6日	第49回理事会	前回審議の進捗報告
2023年2月6日	第50回理事会	前回審議の進捗報告
2023年3月6日	第51回理事会	前回審議の進捗報告